

岩手の生協の今をお伝えする

岩手の生協

VOL.39 2015.8

岩手県生活協同組合連合会

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220-3

☎019-684-2225 / ☎019-684-2227



第50期通常総会は全議案を満場一致で採決



被爆・終戦70年 NPT再検討会議行動に代表が参加



ストップ！戦争法案 緊急集会に1,000人が参加



「TPP 反対！岩手県総決起集会」を諸団体と開催

特集

岩手県生協連 第50期通常総会報告

～第8次中期計画を決定「平和・いのち・暮らし・地域・経営」の
5つの危機に立ち向かい、地域に根ざし役立つ生協をめざします～

NPT再検討会議代表使節団報告

安全保障関連法案の廃案を求め、緊急行動

■会員生協トピックス

- ・いわて生協
- ・岩手県庁生協

■岩手県生協連トピックス

- ・「TPP反対！岩手県総決起集会」を開催
- ・「被爆・終戦70年 平和のつどい」を開催

ほか

岩手県生協連 第50期通常総会を開催しました

第8次中期計画を決定「平和・いのち・くらし・地域・経営」の5つの危機に立ち向かい、地域に根ざし、役立つ生協をめざします

6月25日、代議員・オブザーバー・理事・監事の59人が出席し、第50期（2015年度）通常総会を開催しました。総会では、被災者生活再建支援制度の拡充・平和・TPP反対などの運動を行った「2014年度事業・決算報告」、今後5年間の方針を掲げた「第8次中期計画」、平和を守り「戦争する国」づくり・憲法改悪に反対する運動や生協・協同組合の学習強化などの重点課題をまとめた「2015年度事業計画・予算」、「役員選任」など7つの議案が審議され、全議案を満場一致で採択しました。

《第8次中期計画（15～19年度）》

でめざすもの《

- ①多くの組合員や会員生協、諸団体とともに、「平和・いのち・くらし・地域・経営」の5つの危機に真正面から立ち向かい、「地域に根ざし役立ち・地域から信頼され・地域からサポートされる生協」をめざします。
- ②組合員のくらしの基盤である地域社会の状況、国の政治経済の動向や問題、生協の使命やミッ



ションを学び、話し合う取り組みを強めます。

- ③生協間、協同組合間、諸団体、行政との連携を強め、「だれもが健康で安心して暮らせる地域づくり」をすすめます。
- ④県生協連は16年に50周年を迎えます。これまでどおり地域に徹底して根ざし、地域と組合員、会員生協とともに生協の役割を果たしていきます。

《今年度の取り組みの基調・重点》

平和、いのち、くらし、地域、経営のどの分野にわたっても、ここ1、2年の政治・経済・社会の激変は異常であり、組合員の生活の厳しさ、将来不安は増えています。こうした社会の影響を受け、生協の事業経営も厳しさを増しています。一昨年のIYCでは「協同組合がよりよい社会を築きます」と宣言しましたが、今の政治

の激変期に生協だけが生き残り、組合員のくらしを守り、よりよい社会をつくることはできません。

15年度は、「地域に根ざし役立ち・地域から信頼され・地域からサポートされる生協」になるために、こうした厳しい時期だからこそ、協同組合の価値、原則、ミッションや使命をあらためて深め、話し合い、力をあわせて組合員と地域の願いに沿った運動と事業を展開していきます。

《みんなで取り組む重点課題》

- ①「平和・いのち・くらし・地域・経営」の5つの危機に立ち向かう運動を、ネットワークを広げながらすすめます。
 - ・戦後70年続く平和を子どもたちに引き継ぐため、「戦争する国」づくりや憲法改悪に反対する運動に取り組みます。
 - ・被災地の要望に沿った復興支援

や、生活再建制度の拡充要求、地域づくりに取り組みます。

社会保障制度の本格的な改悪や、消費税増税に反対し、くらしを守る運動を広範な団体と一緒にすすめます。

生協の福祉・生活支援事業について、行政諸団体に働きかけ、生協間の懇談をすすめます。

TPPに反対し、食、食の安全、医療など、いのちやくらしを守る取り組みを推進します。

灯油運動は灯油高騰から組合員のくらしを守り、仲間づくりをすすめます。

- ・食・食の安全、農林漁業を守り育てるための学習や運動をすすめます。
- ・消費者の権利を守る、消費者行政の強化をめざします。
- ・原発再稼働に反対し、脱原発、再生可能エネルギーへの転換を求め運動を推進します。

②生協運動・協同組合運動の果たす役割や使命を学び、話し合う取り組みを強めます。

・生協学校（9月）、協同組合講座（12月）を開催し、参加を増やします。

・会員生協では、県連主催の学習会への参加以外にも、常勤者や組合員むけの協同組合をテーマにした独自の学習会開催をすすめましょう。

・協同組合間提携でのつながりや協力を一層重視し、協同組合らしさの発信に努めます。

③「だれもが健康で安心して暮らせる地域づくり」をすすめます。
・どのような地域を作りたいのか、身近な問題の出し合いや願いを話し合うことから始めます。

・行政との懇談をとおして、協同のある街・コミュニティづくりをすすめます。

④会員生協の運動・事業・経営に役立ち、県内に生協への支持・信頼を広げる県連の役割・機能を強化します。

《生協生協》(要約)

いわて生協 内澤祥子代議員

私たちは誰もが健康で安心して暮らしたいと思い、生協の場を通じて様々な活動に取り組んでいる



が、残念ながら現実には逆の方向にすすんでいると思う。

平和問題に関連して、いわて生協ではこれまでも戦争の悲惨さや平和を学ぶ取り組みを重ねてきたが、今年は今までも増して力を入れる計画であり、みなさんに参加してもらいたいと思っている。学べば誰でも「戦争はダメ」と思うはずである。しかし思うだけではなく行動しなくてはならないと思う。その一歩として組合員と職員が「平和声カード」に気持ちを書いて出してもらおうと取り組んでいる。集めたカードは岩手県選出国会議員を通じて国会への要請行動につなげたい。今、私たちははつきりと思表示をしなければならぬ時だと思おう。昨年12月の協同組合講座でさまざまな生協の方と学べたのは、とても有意義であった。その中で生協は生協の枠にとらわれず、地域の多くの団体と協同して、地域に

根ざした活動をしていくこと、交流を通してお互いを理解しあうことが大事だと思った。これから私たちを取り巻く地域社会や政治・経済、色々な動きが出てくると思うが、県連にはわかりやすい学習の機会を与えて欲しい。県連には先に立って運動をすすめて欲しいと思うし、私たちも結集してともにがんばりたい。

盛岡医療生協 千葉仁志代議員

岩手県は脳卒中死亡率が全国ワースト1位となっており、このような結果からも健康寿命を延ばして、脳卒中を予防し、健康づくりを行うことが大事だと思おう。

盛岡医療生協では、昨年引き続き今年も「健康チャレンジ」に取り組む。8つの生活習慣と2つの健康指標があるが、この項目を日々の生活で気をつけて、ぜひみなさんにも生活の中に取り入れていただき、自分の健康寿命を延ばして



ほしいと思う。
脳卒中死亡率ワースト1位からの脱却をめざして、「健康チャレンジ」への参加と協力をお願いしたい。県内に広げるために、皆さんの生協でも広めてほしい。

みやこ映画生協 櫛桁一則代議員

仮設住宅での上映会では、「これからどうしようか」と不安を話す方も多い。復興予算の中で実際に被災者の手元に届いたのは30%もないのではないかと思う。復興予算がどのように使われているのか、必要な方には届いておらず、被災者生活再建支援は後退していると感じている。

平和の危機に関して、映画生協の活動の一つとして、秋には平和をテーマにした作品の上映を企画し、学ぶ取り組みを行いたい。いわて生協の宮古コープや平和クラブの方と一緒にすすめたい。

映画生協では、昨年度まで13市



町村300回以上の上映会を行ってきた。映画はどこへ行っても喜ばれ、逆にこちらの励みになっている。今後も引き続き活動をしていきたい。

岩手高齢者福祉生協

高橋由香代議員

岩手高齢協では「元気な高齢者をもっと元気に」をスローガンに福祉事業・高齢者生きがい作りを事業としている。

平成27年に制度改正が行われ介護報酬が引き下げられ、事業の運営が非常に厳しくなっている。第8次中期計画の重点課題の中には「だれが必要な介護を受けて安心して暮らせる地域になるよう、諸団体と一緒に行政や社会福祉協議会への要請に取り組み」という項目がある。自治体への要請では常に現状を知っていただき、地域間格差が生じないように一緒にお願いをしていきたい。また、生協の果たすべき役割としてどのよう



な支援ができるか、一緒に知恵を出し合つて、岩手の福祉が全国に誇れるようになればと思う。微力ではあるが生協連と一緒に、がんばっていききたい。

岩手県庁生協

佐藤俊哉代議員

いよいよ来年に国体が行われる。各県から指導者・選手など全国からたくさんの方が岩手を訪れるが、ぜひ被災地の現状を見ていただきたい。

指導者の方たちに岩手を応援する方法として、スポーツ以外にもいろいろあるということ、それぞれの県に戻られてからも考えていただけるよう、国体にむけ盛り上げていこうと考えている。



花巻農協 吉田正志代議員

農協改革について、この改革は政府や政界による攻撃ではあるが、きちんと自分たちの組織を見直して強化していかないと、農協

そのもののアイデンティティを失いかねないと思う。協同組合という立場で、みなさんからご意見いただきたいながら何とか改革を進めて行きたい。



意見・質問に対する理事会からの答弁 加藤善正会長理事

特に質問はなかったが、重要な発言についてお話しする。

生協の枠にとらわれず、地域社会や地域コミュニティとの関連で、協同組合がいかにその役割を果たすか、今後とても大事になると思う。

今、農協改革について国会で協議されているが、これは農家の要求から出されたものではなく、企業が活動しやすくするための改革である。貯金や共済で利益を上げている都市部の農協は准組合員の利用が制限されると危惧している。地方の農協は中山間地の小さい農家も支援しているが、それも

できなくなる。日本の農業は中山間地で耕作面積の4割程度を占めており生産物の35〜36%を支えている。これがなくなったらますます食料自給率が下がる。政府は新自由主義経済をめざしており、弱者の立場に立った協同組合は相容れない存在となる。今は農協だが、やがて全体的な協同組合の解体へとつながると思う。5年後の見直しのときに生協に対して本格的な規制が行われるおそれがある。

今年是被爆・終戦70年。戦争を取り上げた映画はたくさんある中で、地域の生協でもみやこ映画生協へ出前映画会をお願いし、戦争の悲惨さ、本質を学ぶ一つの手段として戦争映画を観るというのもよいと思う。これも全国で唯一、映画生協がある、岩手だからこそできることではないか。

介護社会保障制度の改悪についても、政府は税金を上げながら社会保障を改悪している。日本の民主主義が国民の声が届かない、危険な方向へ進んでいる。主権者である国民の意思が反映しない政治はどこへ向かっているかがはつきりしてきたと思う。組合員の願いをかなえるためには、協同組合運動を大いに発展させてがんばっていききたいと思う。

核兵器廃絶の願いはより強く、NPT再検討会議代表使節団報告

今年是被爆・終戦70年。生協は「平和とよりよき生活のために」を掲げ、平和を守るさまざまな運動に取り組んできました。終戦直前の広島・長崎への原子爆弾投下は、くらしのすべてを破壊し、70年経った今でも被爆者の方々は苦しみながら暮らしています。NPTは、核兵器保有国が増える（拡散すること）を防止するための国際条約で、今年5年に一度の「再検討会議」がアメリカ・ニューヨークで開催されました。被爆者50人の代表団の活動支援のため、日本生協連では生協代表団を派遣しました。岩手県生協連からは盛岡大学生協学生委員の内藤亮さんが参加しました。

被爆者の思いを

受け止め、伝える

核兵器廃絶のために

盛岡大学生協

学生委員

内藤 亮



平和行動に参加した理由

私は、4月24日から5月1日までNPT再検討会議の平和行動に参加しました。

私が今回ニューヨークまで足を運んだ理由は二つあります。一つは、昨年、広島で行われた平和記念式典に参加したときに、もっと世界の人々に核兵器の恐ろしさについて知ってほしいと思ったからです。もう一つは、海外の人々などのくらい核兵器や平和について関心を持っているのかを知りたかったからです。

原爆の実相を証言やパネルで訴える
ニューヨークでは平和に関する



デモ行進や原爆パネル展、被爆者の証言活動を中心に行いました。平和のデモ行進では、全国の大学生からのメッセージを沿道の方々に配りながら歩きました。ニューヨークの人たちは話しやすく、気軽に受け取ってくれました。日本では報道されたようですが、ニューヨークでは報道が少なく驚きましたし、残念に思いました。証言活動では、さまざまな学校を被爆者の方々とまわりました。言葉の壁はありましたが、気持ちは一つになりつつあると感じました。涙を流しながら話を聞く大学生がとても印象的でした。また、海外の方々も個人的に被爆者に話

を聞きにきたり、核に対する意識も高く、自分自身が勉強になる部分が大半でした。被爆者の高齢化も進み、おそらく私たちの世代が被爆証言を直接聞ける最後の世代となるでしょう。被爆者の方々が、辛いけれども、それでも被爆の実相を伝えようとする姿勢に、自分たちも応えなければと強く感じました。私たちの世代、若者の責務として、もっと多くの人に伝え続けなければならぬと強く感じました。

しみを聞き、驚きを隠せない様子が印象的でした。証言活動をしていく上でその違いは子どもたちを困らせていたように感じましたが、両方の言い分を理解し尊重することが大事だとも感じました。

核兵器廃絶のため伝え、広げる

今回の参加で核兵器廃絶への気持ちはより一層強くなり、絶対に無くさなければならぬと思います。また、被爆・終戦70年の今だけでなく、これからも今を生きるうえで一番大切な平和について、多くの大学生を巻き込んだ活動を続け、強めなければならぬと感じました。



安全保障関連法案の廃案を求め、緊急行動

「ストップ！戦争法案 7.5緊急集会」開催

7月5日、「ストップ！戦争法案 7.5緊急県民集会」（同94団体の実行委員会主催、岩手弁護士会が共催）を盛岡城跡公園多目的広場で開催しました。緊急にもかかわらず約千人が参加し、「戦争法案」の廃案を求めました。

主催者挨拶で平和環境県センターの砂金良昭議長は、「平和憲法を守ることができるか、権力乱用を許さない国であり続けられるかの瀬戸際です。安全保障関連法案は絶対に成立させるわけにはいきません。私たちの反対の意思を突き付けましょう」と呼びかけました。この集会には、岩手県知事、民主党、生活の党、社民党、共産党から連帯のメッセージをいただきました。

リレートーク「私が戦争法案に反対するわけ」では、若者「高校野球で勝ちたいとか、ダイエツトを成功させたい」とかのささやかな願いごとは平和だからこそいえること。戦後70年、この平和がずっと続くことを願います」、女性「子どもたちが戦争に巻き込まれれば命を落としかねません。こ

の法案に強く反対します」、労働者「教え子も自分の子どもも戦争へは絶対行かせません」、9条の会「この会の活動に参加して、9条や平和の大切さがわかりました。自分も1児の母として、将来がある子どもたちを戦地に行かせたくない」、医療従事者「過去の戦争で多くの医師や看護師たちが亡くなりました。白衣を再び戦争の血で汚してはなりません」、弁護士会「みなさんの運動に励まされました。法案は違憲であり、立憲主義の理念に反するものです。断固反対します」など各界の代表6人が意見を表明しました。



最後に「民意を無視し、違憲の戦争法案を強引に成立させようとする政府を決して許さない」とする集会決議を採択しました。

閉会の挨拶で、岩手県生協連の加藤善正会長理事は「法案の審議が進むほど、矛盾が露呈し安倍政権は孤立し焦っています。廃案の世論をさらに高めましょう」と呼びかけました。集会後はデモ行進を行いました。

また、当日は衆議院の「平和安全法制特別委員会」委員の橋本英教議員（岩手県出身）に「戦争法案反対」の思いを伝えるハガキ行動を提起しました。その場で30枚のハガキが集まり、その後の呼びかけも含めて30枚のハガキを送付しました。



9月に第2弾の集会開催！

安全保障関連法案は現在参議院

で審議中です。岩手県内でも、若者のデモ行進、大学関係者・研究者・弁護士有志がアピールを発表するなど、廃案を求める世論は大きくなっています。平和憲法・9条をまもる岩手の会（事務局・県生協連・県消団連）では、県選出国會議員へのアンケートを行い、県民に公表しました。また、地元事務所への要請を緊急に行い、反対の声を直接届けました。市民も黙っていられないと宮古、釜石、花巻、紫波などの県内各地域でも、市民が集まり、デモや集会が行われています。

政府は今国会で、この法案を成立させようとしています。廃案を求める県民の意志を示すため、9月に第2弾の集会を開催します。ぜひご参加ください！

- 日時 9月12日（土） 10時半～
- 場所 中津川河川敷
（中ノ橋たもと）
- 内容 反対スピーチ、デモ行進
など

（詳しくは岩手県生協連ホームページをご覧ください）

いわて生活協同組合

今年是被爆・終戦70年の節目の年。また、国会で安全保障法制関連法案が審議されていることもあり、子どもたちに手渡したい「平和」を改めてみんなで考えようと、さまざまな取り組みを行いました。

「平和を願うだけでなく、思いを書き表そう」と取り組んだ平和声カードは、5千枚が寄せられました。「ほかの国でも、日本でも、戦争はしないでほしい」（10代女性）、「震災のときに助けてくれた自衛隊の人々に、武器を持たせることはしてほしくない」（70代女性）と、子どもからお年寄りまで幅広い年代の声が集まり、岩手県選出国會議員に面会して

「この声を受けて国会で尽力してほしい」「政府にこの声を伝えてほしい」と要請しました。

「戦争体験を聞く会」には、60名が参加。押切郁さん（花巻市）に学徒動員の経験をお話いただきました。参加者一人ひとりが、中学生の女の子



に戻った気持ちで話に聞き入り、「こんな経験を、もうだれにも味あわせたくない」「もっとお話を聞きたい」と感想が寄せられました。

各コープ（地域）では「夏休みピースアクション」を開催。8月末までに、例年を大きく上回る56会場で平和映画や紙芝居、絵本の朗読などで、平和の大切さを親子で考えました。

安全保障法制関連法案は、9月中旬にも強行採決か、とも言われています。日本を「戦争ができる国」にするこの法案の廃案を求めて、引き続きみなさんと取り組みます。

岩手県庁生活協同組合

岩手県庁生協は、県職員の福利厚生事業を目的として、購買、食堂事業を中心にグループ保険、住宅マンションの紹介など、様々な事業を県庁、盛岡広域振興局、県警本部の3店舗で展開しております。

購買事業の取り組みとしては、岩手県の観光キャラクター「わんこきょうだい」関連商品を充実させ、全国への岩手の情報発信もお手伝いし、来年16年開催の「希望郷いわて国体」【希望郷いわて大会】に向けた大会グッズも斡旋を開始、開幕前の盛り上げに協力しております。

食堂事業としては、毎日の提供メニューの充実を図りバランスの良い健康的な献立作りを心がけております。毎月第4金曜日には、岩手県産食材の振興策【いわて食財の日】に協賛し、県産食材中心の特別定食を提供しております。今年の春は、盛岡市の地ビール「ベアレンビール」に



協力をお願いし、県庁食堂をピアホールとした企画を開催しました。

県庁の生協ならではの活動として、他県の県職員生協にも働きかけ、「被災地支援商品」【岩手県産品】の購買振興をお願いし、東京都をはじめ、愛知県や、千葉県など他県の職員生協に多大な協力をいただきました。

今後も、岩手県職員、来庁者の方々に喜んでご利用いただける事業を目指し、工夫し、取り組んで参ります。

■TPP等を考える県民会議(52団体)が「TPP反対!岩手県総決起集会」を開催

「TPP等と食料・農林水産業・地域経済を考える岩手県民会議」(県内の協同組合や市民団体など52団体で組織)は、6月1日に盛岡市の岩手県民会館で「くらし、食と農、地域を壊すTPPを許すな!TPP反対!岩手県総決起集会」を開催し、全県から千人が参加しました。

主催者あいさつで田沼征彦代表世話人は「日米両政府が夏までの妥結をめざしているという流れは変わらない。ヤマ場を迎えているのに情報が公開されない。声を上げていきたい」と訴えました。

各層からTPPの問題提起と阻止に向けた決意表明では、青木慶J A岩手県青年組織協議会会長は「国会議員には強い力があるが、



10年後、100年後の農村を壊す権利はない」、尾形文智川久保病院長(肩書きは当時)は「お金のある

人だけが医療を受けられる世の中になりかねない」、高橋基いわて労連副議長は「残業代ゼロ、長時間労働、派遣の固定化などは、TPPとつながっている問題だ」、

藤原真帆いわて生協常務理事は「食品添加物や遺伝子組み換え食品の規制が緩められ、地産地消の学校給食もできなくなる」と訴えました。また、「TPP参加交渉

からの即時脱退を求める大学教授の会」呼びかけ人の醍醐聰東京大学名誉教授からの連帯メッセージが紹介されました。集会には県選出国会議が出席し、県知事のメッセージが代読されました。

最後に、TPP締結阻止にむけ、徹底して行動する集会決議を採択しました。

集会後は、トラクターを先頭に「TPP絶対反対」「国会決議守れ」というプラカードを掲げ、デモ行進を行いました。

集会後は、トラクターを先頭に「TPP絶対反対」「国会決議守れ」というプラカードを掲げ、デモ行進を行いました。

集会後は、トラクターを先頭に「TPP絶対反対」「国会決議守れ」というプラカードを掲げ、デモ行進を行いました。

■「第93回国際協同組合デー岩手県集会」を開催。協同組合が果たす役割を学習

J A岩手県五連や県生協連など10団体で構成する岩手県協同組合

間提携協議会は、7月8日、「第93回国際協同組合デー岩手県集会」を盛岡市サンビルで開催しました。120人が参加し、地域社会で協同組合が果たす役割について理解を深めました。

集会の記念講演では、(一社)農業開発研修センターの小池恒男会長が「地域社会における協同組合の果たすべき役割」と題し講演しました。小池さんは農協改革に

ついて、「非営利規定を排除したことは大問題だ。すべての協同組合に突きつけられている問題だ」と指摘し、「地元業者とともに、

最大限、利益を地域に還元させる地域経済の仕組みづくりが重要」と各地の事例を紹介しました。

その後、各協同組合の取り組み報告、「TPP締結阻止にむけ連携した取り組み強化や被災地支援活動、平和の大切さを学び伝え戦

争のない平和な世界を築くため行動する共同アピール」が採択されました。

集会後は、トラクターを先頭に「TPP絶対反対」「国会決議守れ」というプラカードを掲げ、デモ行進を行いました。

■「被爆・終戦70年 平和祈念像『望み』建立20年 平和のつどい」を開催

8月10日、「被爆・終戦70年平和祈念像『望み』建立20年 平和のつどい」が開催されました。

第1部はいわて生協主催で、ピースアクションinヒロシマ参加報告、会場の盛岡誠桜高校修学旅行報告と平和への願い、松元ヒロライブが行われ、170人が参加し核兵器と戦争のない世界の実現を祈りました。

松元ヒロライブでは、芸人の松元ヒロさんが、現在の平和をめぐる情勢を痛烈に批判しながらも笑いを交えて伝えました。自身が日本国憲法になりきる「憲法くん」

では、前文や9条の大切さなどを訴えました。

第2部は岩手県生協連・いわて生協主催で、平和祈念像「望み」の前で50人が参加し、建立20周年式典を行いました。20歳の大学生

の平和の決意表明や平和の歌を「望み」に千羽鶴をかけながら歌い、平和への思いをあらたにしました。

集会後は、トラクターを先頭に「TPP絶対反対」「国会決議守れ」というプラカードを掲げ、デモ行進を行いました。

